

カラーユニバーサルデザイン

色は誰にでも同じように見えているのでしょうか？実は、そうではありません。色の見え方は人によって様々です。より多くの人へ確実に分かりやすく情報を伝えるために、多様な色覚に配慮した「カラーユニバーサルデザイン(カラーUD)」を進める必要があります。

⇒ カラーユニバーサルデザインとは

色覚(色の感じ方)は、味覚や嗅覚と同じように人それぞれに違います。

このため、情報を見分けやすくするためにつけられた色使いが、人によっては、色による情報を正確に受け取れなかったり、伝えたい情報とは違って受け取られてしまう場合があります。

色による気づきの差が情報の差にならないように、誰に対してもきちんと正しい情報が伝わるように、色の使い方にあらかじめ配慮することを「カラーユニバーサルデザイン(カラーUD)」といいます。

見えにくい色使い	配慮された色使い

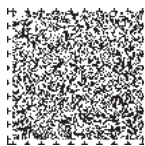
⇒ 多様な色の感じ方

先天性の色弱(赤緑色弱)の日本人の割合は、男性の約20人に1人、女性の約500人に1人、日本全体では約320万人いると言われています。

これらの先天性の色弱の人^(※)は、視力に問題はなく細かいものまで十分見えますが、一部の色の組み合わせについて、一般的な色覚者と色の感じ方が異なります。赤・黄・緑色の差を認識しづらいP型、D型^(※)などのタイプがあり、色覚は人によって様々です。

(※)「色弱者」や「P型」、「D型」という呼称は、NPO法人カラーユニバーサルデザイン機構

(CUDO)が提唱しているものを使用しています。一般的な色覚の人以外を、色の配慮が不十分な社会では情報弱者となりうることから「色・弱者」と呼んでいます。



⇒ 誰にとっても見分けやすいデザイン

カラーユニバーサルデザインは、一部の色弱の人のためだけの特殊なデザインではありません。

多様な色覚での見え方を意識したデザインは、誰にとっても見分けやすいものになります。

【具体例:カレンダー】

	改善前	改善後	
一般色覚者	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	
	色弱者(P型)	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30
		問題点	改善点
		平日の黒色と祝祭日の赤色が同じ色に見えるため、祝祭日を平日と間違えてしまうことがある。	・日曜・祝祭日の赤色を橙色に近づけた。 ・数字を太くし、色の面積を広くした。 ・祝祭日に背景をつけて目立たせた。

カラーユニバーサルデザイン講演会

鳥取県では、7月25日(金)に、NPO法人カラーユニバーサルデザイン機構 副理事長の伊賀公一^{いが こういち}さんによる講演会を開催しました。



講師：伊賀 公一 さん

県民の方や自治体職員が参加し、色弱の人の困っているところを色弱模擬フィルタでの疑似体験を通して気づき、誰もが暮らしやすい社会へ近づくために、自分たちができる工夫について考えました。